



DYNAMICS

機械力学・計測制御部門ニュースNo.38

July 14, 2006

Journal of System Design and Dynamics

機械力学・計測制御部門英文ジャーナル Journal of System Design and Dynamics の発刊に際して

機械力学・計測制御部門長 中川紀壽
部門英文ジャーナル編集委員一同

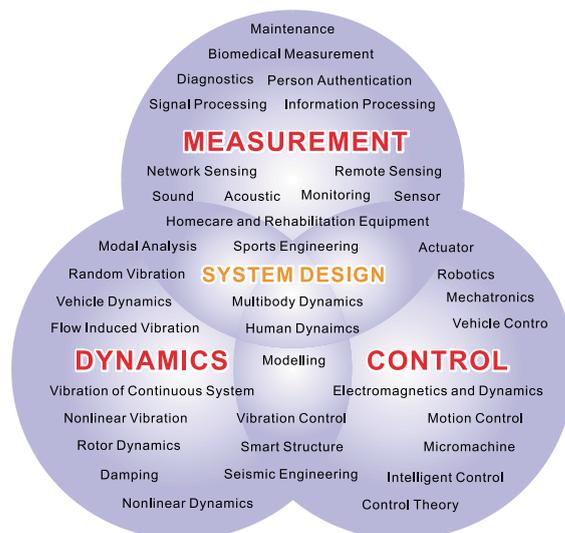
この度、日本機械学会機械力学・計測制御部門では、電子ジャーナルJournal of System Design and Dynamics (JSDD)を発刊することになりました。この欄をお借りして、JSDD発刊の経緯を説明させていただくとともに、会員の皆様にJSDDへの積極的な投稿をお願いします。なお、7月から<http://www.i-product.biz/jsme/>にて投稿受付を開始する予定です。

日本機械学会の英文論文誌JSME International Journalは、会員の要望の多様化、グローバル化に伴い、投稿論文数、インパクトファクター、財務的などの問題を抱え、抜本的な改善が求められてきておりました。このような状況の中、日本機械学会編集理事会では2002年に論文集発行形態検討委員会を設置し、各方面から検討を重ねた結果、JSME International Journalを廃止し、部門単位での電子ジャーナルへの移行を決定いたしました。この決定を受けて、機械力学・計測制御部門では、第82期水野毅部門長がジャーナル移行への検討を開始し、2005年3月30日に開催された機械力学・計測制御部門第83期運営委員会においてWGの発足が承認され、第83期石田幸男部門長により部門英文Journal移行準備委員会が2005年5月に設置され、その後、2005年6月7日に機械力学・計測制御部門第83第2回部門運営委員会にて部門英文Journal移行準備委員会の立ち上げの説明がなされ、承認されました。さらに、2006年5月29日開催の機械力学・計測制御部門第84期第2回部門運営委員会において、部門英文ジャーナル編集委員会の構成およびEditor制による編集方針などが承認され、以来、2007年1月の創刊に向けて準備が進められています。

機械力学・計測制御部門は日本機械学会の部門の中で6000名を越える会員数を有し、これまで多数の国際会議を創設、開催するなど、国際的なアクティビティが高い伝統ある学術集団であります。機械力学・計測制御部門は、歴史的に産業界との連携が篤く、旺盛な研究活動と実績を有しています。これらの背景を基にして、厳正・迅速な査読システムにより質・量ともに充実した論文誌を編集・発行することによって、引用頻度やインパクトファクターが高い国際誌として有力な英文ジャーナルへと発展させることができると確信いたします。

機械力学・計測制御部門英文ジャーナルの特徴は以下の通りです。

- (1) ジャーナル名は、Journal of System Design and Dynamics (JSDD)とする。
- (2) 編集体制はEditor制として、Editorが校閲者選定、校閲の督促、著者への照会等を行う。
- (3) 本電子ジャーナルは、JST(科学技術振興機構)のJ-STAGE (<http://www.jstage.jst.go.jp/browse/-char/ja>)で公開(閲覧無料)する。
- (4) オンライン投稿・校閲・出版システムの導入により、論文投稿から掲載までの処理を迅速に行う。査読結果の通知まで3ヶ月以内を目標とする。校閲が完了した論文は、論文単位で順次J-STAGEにアップロードする。Vol.は、年単位とし、No.については、1ヶ月毎とするか3ヶ月毎とするかは、状況を見て判断する。
- (5) 動画や音声ファイルも電子付録(論文とは別にリンクされたもの)として掲載できる。
- (6) 下図の分野に関連した研究分野の原著論文および展覧・解説論文を募集対象とする。



対象分野 (Covered Technical Areas)

(7) 掲載料は以下のとおり (2006年 6月現在)。

【日本機械学会指定のテンプレートを利用した場合】

掲載ページ数	第1著者が会員の場合	第1著者が会員外の場合
1~12ページ以内	論文1編あたり20,000円	論文1編あたり40,000円
12ページ以上	1ページあたり10,000円加算	1ページあたり20,000円加算

【テンプレート以外を使用した場合】

上記に論文1編あたり30,000円加算

部門英文ジャーナル編集委員会 (50音順) の構成は以下の通りです。

編集委員長：吉田和夫

編集委員：石田幸男 (名古屋大) 川邊武俊 (九州大) 曾根 彰 (京都工芸繊維大)
千田有一 (信州大) 曄道佳明 (上智大) 中川紀壽 (広島大)
西村秀和 (千葉大) 藤田 聡 (東京電機大) 水野 毅 (埼玉大)
藪野浩司 (筑波大) 渡部幸夫 (東芝)

会員諸氏のあたたかいご支援をお願いする次第です。

投 稿 規 程

Journal of System Design and Dynamics

(日本機械学会 機械力学・計測制御部門編集・運営)

Journal of System Design and Dynamics (以下, JSDD)

は、機械工学・工業に関する学術・技術情報を国際的に発信する電子ジャーナルとして、機械力学・計測制御部門が編集および出版の運営に当たり、日本機械学会が発行する。

1. 投稿論文

JSDDに投稿できる論文は著者の原著であり、一般に公表 (配布または販売) されている刊行物に未投稿のものに限る。ただし、日本機械学会論文集の掲載論文は英文論文として投稿できる。

2. 投稿者の資格

会員・会員外でも投稿可。

3. 著作権

JSDDに公開された論文の著作権は原則的に本会に帰属する。

4. 規定ページ数

1編のページ数は次のとおりとする。

原著論文 12ページ以内 (約7800word)

編集委員会で特に認めたもの以外はページ数の超過を認めない。

5. 投稿論文の作成および投稿方法

投稿論文は所定のテンプレートに基づき作成し、本会投稿・審査システムにより投稿することを原則とする。

6. 論文の使用言語

論文の使用原稿は英文とする。

7. 論文の使用単位

論文の原稿中で用いる単位はSI単位とする。

8. 論文の採否

論文の採否は、編集委員会が決定する。

9. 論文の責任

JSDDに公開された記事の内容についての責任は、すべて著者が負うものとする。

10. 原稿受付日

論文の受付日は、論文が本会に到着した日とする。ただし、内容の加筆・修正などを依頼した原稿については、本会からの照会発信日から2箇月以内に著者から回答とともに原稿が返送 (本会へ着信) されない場合は、最初の受付日は無効となる。

11. プライオリティ

論文のプライオリティの発効日は、原稿受付日とし、これをJSDDに明記する。

12. 公開日

校閲を経て掲載可が決定し、正原稿の提出後に随時公開することとし、論文公開日を目次中に明記する。

13. 掲載料

JSDDに論文が公開された場合、著者は掲載料を支払う。掲載料は別に定める。

部門長就任に際して

第84期の機械力学・計測制御部門の部門長の就任に際し、ご挨拶申し上げます。常々当部門の活動にご協力を賜り有難うございます。当部門は、元々機械力学委員会でしたが、第65期(昭和62年度)に部門制に移って機械力学部門となり、長松昭男先生が初代部門長としてご就任されて以来、平成3年に現在の機械力学・計測制御部門となり、今期が丁度20年目に当たります。これまでに歴代の部門長が築かれ、また、活発に展開されてきた諸活動のお陰で、現在は、登録者が最も多い部門の中の1つとなりました。今期、部門では、1分科会と31の研究会がそれぞれ特色ある活動を行なっています。

今期における主な重要項目・目標を挙げますと次のようになります。

- (1) 部門英文ジャーナル (Journal of System Design and Dynamics) の発刊
- (2) 部門の活動評価
- (3) 他の関連学会との交流・企画
- (4) 若い世代の発掘

まず部門英文ジャーナルの発行については、吉田和夫委員長(慶応大)、水野毅幹事(埼玉大)を中心として、部門ジャーナル編集委員会で熱心に検討を重ねて頂き、2007年1月の創刊の準備に入り、具体的には2006年7月から受付を開始する段階となって参りました。かつては、理事会などで、欧米のジャーナルに対して、アジア地域内で纏めた特徴ある形態のジャーナルにする議論などをなされたこともありました。学会としては最終的に、部門単位あるいは他部門などとの連携によるジャーナルを発行することになりました。論文の発信は部門として研究成果を社会に示す、最も重要なものと位置付けられます。論文の質の高さと共に、投稿から校閲結果の通知までのレスポンスの早さを特徴とした編集方針が作られましたので、積極的に投稿して下さいをお願いします。

第84期部門長
中川紀壽 (広島大学)



次に、学会による部門の活動評価があります。部門の活動評価は、おおむね3～5年毎に実施されることになっていますが、2001年に第一回部門評価が実施されたため、今期、第二回部門評価が行われることになりました。評価そのものに捉われることなく、国際会議をはじめ、国内講演会や講習会などをバランスよく開催し、会員の要求に答えられるようにしたいと思います。

また、他の関連学会との交流・企画を進めます。研究に対する興味・関心の多様性が急速に増してきているため、これまで行ってきた関連学会とはもちろんのこと、新しい他の学会との交流や新企画を押し進め、新時代への対応を確実に進めたいと思います。

さらに重要なこととして、当部門に対する若い世代の関心の惹きつけ、講習会・講演会などの事業への参加の促進があります。若い世代の研究者や学生は、部門の将来を担う貴重な人材です。魅力ある事業を企画し、若い世代の方々への部門への加入に繋がるようにしたいと思います。

部門にはご存知のように常設委員会として総務、広報、表彰、講習会企画、出版の委員会がありますが、各委員会では新企画の提供に取り組み、献身的なご協力を頂いています。種々の企画は部門のホームページなどを通じてご案内致しますので、多数ご参加下さいますようお願い申し上げます。

なお、部門最大の行事であるD&D講演会が、今年は8月に名古屋大学で開催するよう準備が着々と進められています。また、来年は9月に広島にて開催することになりました。これらの講演会にも沢山の方々をご参加頂きますようお願い致します。

部門長退任のご挨拶

第83期部門長
石田幸男 (名古屋大学)

第83期部門長の退任に際し、一言ご挨拶申し上げます。昨年、緊張した気持ちで部門長をお引き受けしてから、もう1年が経ってしまいました。まず、幹事の藪野先生をはじめ、副部門長、常設委員会の各委員長・幹事の諸先生方のご支援とご協力に、心からお礼申し上げます。超多忙な皆様にこれらの役職をお願いすることに対して大変申し訳なく思っておりましたが、快くお引き受けいただき、ご活躍いただいたことに感謝しております。さらに機械学会事務局の小阪様のご支援に対しても、厚くお礼申し上げます。

以前から直面しておりました財政問題と英文論文誌の改革問題も順調に良い方向に進んでおります。特に後者に関しましては、グローバリゼーションが進む中で21世紀の当該分野をリードする国際ジャーナルを目指し、いよいよ新たな英文ジャーナルが発足いたします。皆様のご投稿をお待ちしております。

ここで、この場を借りて最近感じていることを、特に若い会員の方にお伝えしたいと思います。NHKのプロジェクトXで当時の様子を知ることができますが、私はトランジスタラジオ、テレビ、人工衛星、アポロ計画、原子力

発電、新幹線など、夢と希望にあふれた技術の誕生を見ながら育ってきました。その後、大学時代には公害と大学紛争というひずみも経験しましたが、質素でも時間的、精神的にゆとりのある大学の中で、勉強会や実験に十分な時間をかけて研鑽してきました。それに比べると、現在の大学があまりにもスピードと効率を重視し、われわれの回りでは定員削減、任期制、公募、外部資金、業績評価などのことばが氾濫しています。論文数や獲得資金という「数」を追い求めると、オリジナリティや体系化という「質」をつぶす危険性があります。象牙の塔という表現に批判はあるかもしれませんが、大学の良さは精神的なゆとりのなかで、思索にふける場を提供することにあります。自然現象に対して「なぜだろう」という純粋な疑問をもち、数学と物理学の基本にたちもどってそれを考えることが必要です。国際会議に出席する数を減らし、その費用と時間を使い、数人の研究者仲間と山中の民宿にとじこもって理工学の古典的名著を読破してみませんか。まわりに目をうばわれず、「自分流」に自信をもって研究してください。若い会員の将来に期待しています。

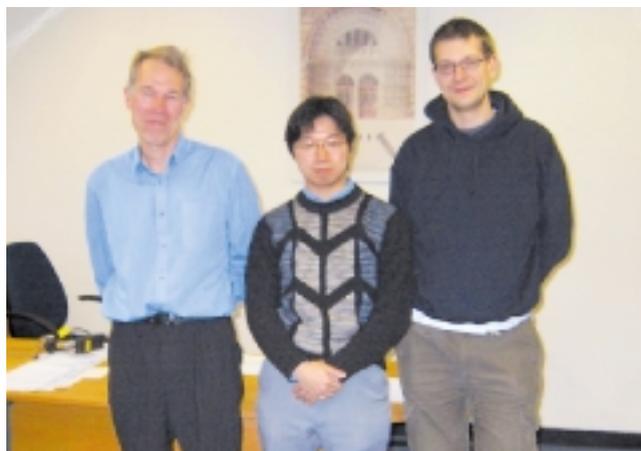
在外研究報告

(英国サウサンプトン大学)

中野公彦 (山口大学)

文部科学省の海外先進教育研究実践支援プログラムにて、2005年3月から2006年2月までの12ヶ月間、イギリス、サウサンプトン大学のISVR (Institute of Sound and Vibration Research) に研究員として滞在する機会を得ました。既に多数の先輩の方々が滞在された研究所であり、改めて触れる必要もないかと思いますが、音響・振動工学を中心とした研究所で、当該分野において有力な研究者が集まっている、世界的に有名な研究所です。現在は学部教育も行っており、大学の中では1つの学科として機能しています。

ホストプロフェッサーはStephen J Elliott教授でした。騒音および振動のアクティブ制御の研究成果で有名な一方、近年は脳波解析による“てんかん”発作の予測、内耳にある蝸牛(かぎゅう)のモデリングなどの生体に関係した研究も精力的に行っています。Elliott教授は、私の滞在中である2005年10月にISVRの所長とされましたが、それまでリーダーを務めていた研究グループ (Signal Processing and Control Group) は、音響振動制御を行う研究者と生体信号処理を行う研究者が同居するような構成となっていました。私も振動のアクティブ制御の研究を進める一方、医学部脳神経外科と共同で、“てんかん”発作の抑制制御に関する研究も行っていましたので、まさにピッタリの研究環境でした。



Elliott教授, Rustighi助手と一緒に

滞在中は、振動制御と脳波解析に関する研究を行いました。振動制御においては、スマート構造物における振動からのエネルギー回生に関する研究を行う一方、脳波解析では独立成分解析という信号処理技術を学びました。また、ISVRには、人体振動の分野の研究をされているGriffin教授など、他の研究グループにも振動音響の分野で著名な研究者が多く、振動関連の研究を行う身としては、多くの刺激を受けることができました。充実した日々を送ることができたと思っています。

大学内は多国籍です。同室のメンバーも、オーストラリア人、クロアチア人、ポーランド人、中国人でした。私と同様に客員研究員の人もいれば、大学院の学生もありました。学生は皆、留学生で色々なことを経験しているからでしょうか、しっかりとしている印象を受けました。日本よりも職場の人間関係は淡泊なので“研究室の飲み会”のような企画は頻繁にはありませんが、研究の合間に会

話をするだけでも、色々刺激を受けました。また、欧州全体がそうでしょうが、街中には色々な日本文化が断片的に入ってきています。特に、庭好きのイギリス人らしく、盆栽が流行しており、日本にいる時よりも目にする機会は多いと思います。宮崎駿の映画も有名で、一度研究室の仲間と見に行きました(残念ながら、吹き替え版!)

家族ぐるみの付き合いは盛んです。今回の滞在には妻と出発時に3歳と1歳になる2人の子供を連れて行きましたが、他の家で開催されるバーベキューパーティなどに行く機会も多くありました。緯度が高いうえに、サマータイムを実施しているので、夏は夜10時近くまで明るくなります。バーベキューパーティなどの時は、子供も日が暮れるまで庭を駆け回っているの、帰る頃には子供はたいそう疲れることになります。反対に冬は日が短くて、少し憂鬱になりますが、その代わりにクリスマスパーティーで盛り上がることになります。良く言われることですが、子育てをしている人に対して親切な社会でした。多くのバスがノンステップになっており、ベビーカーをたたむことなく乗ることができますし、子連れの人には列や席を譲ってくれます。また、子供を遊ばせる公園なども整備されており、生活に慣れると子育てしやすい環境です。食や天候に関しては、必ずしも良い評判のないイギリスですが、総じて、生活は快適だと思います。日本は、確かに経済的に繁栄をし、食事もおいしく、企業が提供するサービスの質も高いのですが、その反面、効率性重視で、人々にも余裕がなく、本来の快適さでは劣るような感じがしてしまいます。

海外での生活を通じて、研究面でも日常生活の面においても、多くの刺激を得ることができ、大変有意義な1年間を過ごすことができました。当滞在を助成して頂いた海外先進教育研究実践支援プログラムの関係各位、また私の不在時に国内の仕事をサポートして頂いた方々に、お礼を申し上げます。



近所の公園にて

Dynamics and Design Conference 2006
総合テーマ：「匠に学び科学で研く新技術」
(機械力学・計測制御部門 企画)
<http://www.jsme.or.jp/dmc/DD2006>

協賛 計測自動制御学会, システム制御情報学会, 自動車技術会, 情報処理学会, 人工知能学会, 精密工学会, 電気学会, 電子情報通信学会, 土木学会, 日本音響学会, 日本建築学会, 日本原子力学会, 日本航空宇宙学会, 日本神経回路学会, 日本スポーツ産業学会, 日本造船学会, 日本鉄鋼協会, 日本トライボロジー学会, 日本知能情報ファジィ学会, 日本フィールドパワーシステム学会, 日本ロボット学会, バイオメカニズム学会, 日刊工業新聞社

開催日 2006年8月6日(日)～8月9日(水)
会場 名古屋大学工学部IB電子情報館
(名古屋市中種区不老町)

開催趣旨

機械力学・計測制御部門の最大の行事である講演会「Dynamics and Design Conference 2006 (D&D2006)」を開催いたします。今回は、日本のほぼ中央に位置し、機械工業の代表的企業が数多く集まっている中部地方での開催です。総合テーマ「匠に学び科学で研く新技術」は、伝統技術のノウハウと現代科学の粋を結びつけてものづくりを実現するという意味を持っております。多岐にわたるオーガナイズド・セッションにおいて機械力学・計測制御分野に関連した多数の講演がなされるとともに、特別講演、基調講演、フォーラム、機器展示、懇親会などの様々な付随行事が行われます。また、学生・若手研究者向け講習会「第4回夏の学校」も併せて開催されます。多数のご参加を心よりお待ちしております。

—付随行事案内—

〔特別講演〕

- (1) 日時 8月7日(月) 13:30～14:45
題目 「機構と機巧 (からくり)」
講師 末松良一氏 (名古屋大学名誉教授,
豊田工業高等専門学校長)
- (2) 日時 8月8日(火) 16:15～17:30
題目 「HSST “リニモ” に賭けた夢」
講師 藤野政明氏 (中部HSST開発(株)社長)

〔フォーラム〕

- (1) マルチボディダイナミクスの新展開
—ものづくりとMBD—
(日時: 8月6日(日) 13:00～17:00)
- (2) v-Baseフォーラム
(日時: 8月9日(水) 9:00～17:00)
- (3) スマート構造システムフォーラム 2006
—スマート構造システムの将来技術と実用化—
(日時: 8月9日(水) 13:00～18:00)

〔学生向け講習会〕

第4回夏の学校: ローターダイナミクスの基礎・信号処理・制振

日時 8月5日(土) 9:20～16:40
詳細 第4回夏の学校の開催案内(後述)をご覧ください。

〔部門賞贈呈式・懇親会〕

日時 8月8日(火) 18:00開場, 18:30開宴～20:00
場所 メルパルクNAGOYA
会費 一般 6000円 学生 3000円

〔機器・カタログ・書籍展示〕

日時 8月7日(月)・8日(火)
場所 会場ロビー

—各種費用案内—

- 参加登録費
正員・准員14000円(論文集代込み)／会員外22000円(同),
(ただし、後期課程学生は5000円を減額)
学生員3000円(論文集代別)／一般学生5000円(論文集代別)
なお、非会員の方でも、講演者あるいは協賛学協会の会員の方は、相当する会員料金(正員, 准員, 学生員)を適用させていただきます。
- 講演論文集代(アブストラクト集&講演論文CD-Rom)
登録者(当日) 3000円*
会員特価10000円, 定価15000円**
*参加登録者には、会期中に限り受付会場にて当日価格にて頒布いたします。
**講演論文集のみご希望の方は「行事申込書」(会誌または学会ウェブサイトより)に必要事項を記入し、代金を添えてお申込みください。D&D2006終了後に発送いたします。
- フォーラム, その他資料集
会期中, 参加者に実費販売の予定

—プログラム・講演会の詳細—

<http://www.jsme.or.jp/dmc/DD2006> をご覧ください。

問合せ先

D&D2006実行委員長 石田幸男 (名古屋大)
電話&FAX (052)789-2790
E-mail : ishida@nuem.nagoya-u.ac.jp
D&D2006幹事 藪野浩司 (筑波大)
電話 (029)853-6473 / FAX (029)853-6471
E-mail : yabuno@esys.tsukuba.ac.jp

D&D2006タイムテーブル

	講演室 1	講演室 2	講演室 3	講演室 4	講演室 5	講演室 6	講演室 7	特別講演室	ロビー
5日(土)			<講習会> 夏の学校 9:20-16:41						
6日(日)	OS27 非線形現象の解析と非線形制御理論 9:00-10:20 原子間力顕微鏡 [101-104]	OS2 マルチボダイナミクス(1) 9:00-10:20 フレキシブルマルチボダイナミクス [201-204]	OS17 流体関連振動・音響のメカニズムと計測制御 9:00-10:20 自由液面を有する流体関連振動のメカニズムと制御 [301-304]	OS 2.2 ダンピング(1) 9:00-10:20 制御装置のモデル化、解析法 [401-404]	OS4 運動と振動の制御(1) 9:00-10:20 除振・浮上システムの制御 [501-504]	OS12 福祉工学 9:00-10:20 歩行アシスト [601-604]	OS24 音響・振動(1) 9:00-10:20 衝撃音・騒音の低減 [701-704]		10:40-12:00 基調講演 講師：矢ヶ崎一幸(岐阜大) 「一研究者からみた非線形力学の今とこれから」
		10:40-12:00 車両の運動と制御 [205-208]			10:40-12:00 搬送システムの制御 [505-508]	10:40-11:40 車いす [605-607]	10:40-12:00 音・振動計測 [705-708]		
	13:00-14:20 共振現象、同期現象 [105-108]	OS15 細胞・軟組織のダイナミクス 13:00-14:20 細胞-軟組織のダイナミクス1 [209-212]	13:00-14:20 直交流および並行流による流体関連振動のメカニズムと制御 [305-308]	13:00-14:20 制御装置のモデル化精度の向上 [405-408]	13:00-14:20 エネルギーに注目した制御 [509-512]	13:00-14:20 歩行支援 [608-611]	13:00-14:20 摩擦音・減衰特性 [709-712]		
	14:40-16:00 連続体の振動現象 [109-112]	14:40-16:00 細胞-軟組織のダイナミクス2 [213-216]	14:40-16:00 圧力脈動および管内流による流体関連振動のメカニズム [309-312]	14:40-16:00 吸振器の改良と応用 [409-412]	14:40-16:00 運動制御と振動制御 [513-516]	14:40-16:00 センシング [612-615]	14:40-16:00 音・解析 [713-716]		マルチボダイ フォーラム 13:00-17:00
	16:20-18:00 低次元化、制御系 [113-117]	OS20 最適設計 16:20-17:20 振動・音響問題における最適化 [217-219]	6:20-18:00 流体関連振動の計測・制御と応用技術 [313-317]	16:20-17:40 制御装置の開発と実用化 [413-416]	16:20-17:40 計測制御デバイス [517-520]		16:20-18:00 管路系・スピーカ [717-721]		
	17:40-18:40 同定・最適化 [220-222]								
7日(月)	OS1 振動基礎(1) 8:40-10:20 衝突・衝撃特性 [118-122]	OS2 マルチボダイナミクス(2) 9:00-10:20 運動、振動の解析と最適化 [223-226]	ダイナミクス一般、ダイナミクスに関する新技術 9:20-10:20 [318-320]	OS22 ダンピング(2) 9:00-10:20 減衰評価法 [417-420]	OS4 運動と振動の制御(2) 9:00-10:20 モデリングと制御 [521-524]	OS10 折り紙・マイクロ・スマート構造 9:20-10:20 折り紙・パネル構造 [616-618]	OS24 音響・振動(2) 9:00-10:20 音質・楽器 [722-725]		10:40-12:00 基調講演 講師：野島武敏(京都大) 「非線形性を活かすモデリングと制御」
						10:40-11:00 スマート・マイクロ・モデル化 基調講演 講師：野島武敏(京都大)			
	13:30-14:45 <特別講演> 講師：末松 良一氏 「機構と機巧(からくり)」 特別講演室								
	15:00-16:20 同定・不規則振動 [123-126]	OS7 動的機械量の計測 15:00-16:40 力学量の動的計測・国際規格 [227-231]	OS18 ロータダイナミクス(1) 15:20-16:20 制御・パラシシング [321-323]	15:00-16:20 非線形減衰系の設計解析法 [421-424]	15:00-16:20 輸送機械の制御 [525-528]	OS9 知的材料・構造システム(1) 15:00-16:20 制御・モニタリング1 [621-624]	OS23 サイレント工学(1) 15:00-16:20 構造-音場のモデル構築 [726-729]		機器展示 9:30-17:00
	16:40-18:00 振動抑制1 [127-130]	17:00-18:20 自動車エンジン関連動的計測 [232-235]	16:40-18:00 磁気軸受・能動軸受 [324-327]	OS19 耐震・免震・制振(1) 16:40-18:00 耐震 [425-428]	16:40-18:00 鉄道車両の制御 [529-532]	16:40-17:40 モデリング [625-627]	16:40-18:20 空間の能動騒音制御 [730-734]		
8日(火)	OS1 振動基礎(2) 9:00-10:20 振動抑制2・振動解析 [131-134]	OS21 モード解析とその応用関連技術 9:00-10:20 モード解析 [実験推定] [236-239]	OS18 ロータダイナミクス(2) 9:00-10:20 非線形振動・解析法 [328-331]	OS19 耐震・免震・制振(2) 9:00-10:20 免震1 [429-432]	OS4 運動と振動の制御(3) 9:00-10:40 自動車の制御と設計 [533-537]	OS9 知的材料・構造システム(2) 9:00-10:20 制御・モニタリング1 [628-631]	OS23 サイレント工学(2) 9:00-10:20 床-壁面透過音の能動制御 [735-738]		機器展示 9:30-15:00
	10:40-12:00 信号処理・非線形振動1 [135-138]	10:40-12:00 モード解析 [モデル化・解析] [240-243]	10:40-12:00 軸受技術 [332-335]	10:40-12:00 免震2 [433-436]	OS5 アドバンスド制御理論とその応用 11:00-12:00 ロボト制御理論の応用 [538-540]	10:40-12:00 応用・実用化 [632-635]	10:40-12:00 騒音の推定と低減化 [739-742]		
	13:00-14:20 非線形振動2 [139-142]	13:00-14:20 モード解析 [解析法1] [244-247]	13:00-14:20 ブレード・フライホイール・モータ [336-339]	13:00-14:20 制御 [437-440]	13:00-14:20 スライディングモード制御の応用 [541-544]	OS13 感性計測と設計 13:00-14:20 応用感性計測 [639-642]	13:00-14:00 交通騒音の評価と低減 [743-745]		
	OS26 機械・構造物の非線形振動とその応用(1) 14:40-16:00 現象解析 [143-146]	14:40-15:40 モード解析 [解析法2] [248-250]				14:40-15:40 振動と感性計測 [636-638]		14:40-16:00 基調講演 講師：榊田 均(東芝) 「機械の状態監視と診断に関するISO規格関係の話題」	
	16:15-17:30 <特別講演> 講師：藤野政明氏 「HSST “リネモ”に賭けた夢」 特別講演室								
部門賞贈呈式・懇親会 18:00開場 18:30開演～20:00(メルパルクNAGOYA)									
9日(水)	OS26 機械・構造物の非線形振動とその応用(2) 9:00-10:20 解析手法 [147-150]	OS11 板・シェル構造の振動と座屈 9:00-10:20 連続体振動の基礎理論 [251-254]	OS14 ヒューマン・ダイナミクス 9:00-10:20 生体計測 [340-343]	OS19 耐震・免震・制振(3) 9:20-10:20 スロッシング制振・振動実験技術 [441-443]	OS3 ロボットのダイナミクスと制御 9:00-10:20 ビークル [545-548]	OS8 システムのモニタリングと診断 9:20-10:20 外力の推定 [643-645]			
	10:40-12:00 摩擦・ダンピング [151-154]	10:40-12:00 板・シェル構造の応用 [255-258]	10:40-12:00 運動の計測と解析 [344-347]	10:40-12:00 振動制御 [444-447]	10:40-12:00 ロボット制御(運動制御と画像処理) [549-552]	10:40-12:00 回転機械・設備機器の診断 [646-649]			
	13:00-14:20 連続体の非線形振動 [155-158]	13:00-14:20 板・シェル構造の最適化 [259-262]	13:00-14:20 人体のモデリング(1) [348-351]	OS16 電磁気応用 13:00-14:20 静電応用と振動制御 [448-451]	13:00-14:20 マニピュレータ [553-556]	13:00-14:20 信号処理・診断システム [650-653]	v-BASE フォーラム 9:00-17:00		
OS25 パターン形成現象と複雑性 14:40-16:00 パターン形成現象と複雑性 [159-162]	14:40-15:40 板・シェル構造の座屈 [263-265]	14:40-16:00 人体のモデリング(2) [352-355]	14:40-16:20 磁気応用 [452-456]	14:40-16:00 2足歩行 [557-560]	14:40-15:40 機械要素・締結体のモニタリング [654-656]		スマート構造 フォーラム 13:00-17:40		
16:20-17:40 同期化・セルオートマトン [163-166]					OS6 衝撃制御 16:00-17:40 衝撃の制御 [657-661]				

ACMD2006

—The Third Asian Conference on Multibody Dynamics 2006—

第3回アジアマルチボディダイナミクス会議2006

(主催：日本機械学会(幹事学会)、韓国機械学会)

組織委員長 須田 義大 (東京大学)

開催日 2006年8月1日(火)～4日(金)

会場 東京大学生産技術研究所 (東京都目黒区駒場4-6-1)

Website <http://acmd2006.iis.u-tokyo.ac.jp/>

概要 ACMD (Asian Conference on Multibody Dynamics) は、マルチボディシステムのダイナミクス、制御、および設計に携わる国際会議です。今回は、アジア・欧米を越えはじめとした世界各国からの研究者・技術者から160編を超える申し込みがあり、情報交流のために格段に有益な場を提供できるものと確信いたします。下記のトピックスに関する最新の研究成果の発表と、Instituto Superior Tecnico (ポルトガル) Jorge A. C. Ambrosio教授と、日本大学背戸一登教授によるキーノートスピーチが予定されています。

トピックス Multibody system analysis/Rigid and flexible multibody dynamics/Modeling, formalisms, and DAE solution method/High performance formalisms and

computation/Kinematics/Vehicle dynamics/Contact, impact, and friction/Rail-wheel contact problems/Control of MBS/Motion and vibration control/Robotics and mechatronics/Biomechanics/Visualization/Dynamic strength evaluation for MBS/Parameter identification/Optimization and sensitivity analysis in MBS/Electromagnetic interactions in MBS/CFD interactions/Aerospace dynamics

会議プログラム 上記Websiteに掲載

参加登録 参加登録および宿泊予約は、上記Websiteよりオンラインで申込を受け付ける。

参加登録費 一般：45,000円(バンケット代金を含む)
学生：15,000円

講演論文集 講演論文集(CD-ROM)のみご希望の方には、1点につき会員10000円、会員外15000円にて予約申込みを受け付けます。本行事終了後は講演論文集を販売いたしません。日本機械学会または次のホームページからお申し込みいただけます。

<http://www.jsme.or.jp/kanko4-1.htm>

問合せ先 上智大学理工学部機械工学科/畔道佳明

電話：(03)3238-3314/Fax：(03)3238-3311

E-Mail: acmd2006@iis.u-tokyo.ac.jp

ジョイント・シンポジウム2006

スポーツ工学シンポジウム/シンポジウム： ヒューマン・ダイナミクスの御案内

開催日 2006年11月9日(木)～11日(土)

会場 (財)石川県地場産業振興センター

(〒920-8203 石川県金沢市鞍月2丁目1番地)

ジョイントシンポジウムはスポーツ工学と、生体に關わる計測や運動学などを扱うヒューマンダイナミクスの学際領域を扱う、年に1回のイベントで、今年で第16回目の開催となります。本年度は、スポーツ工学やスポーツ計測の他、理学療法士学会などの協賛も得て、運動生理学や、筋骨格系のバイオメカニクスにも力をいれていきたいと考えております。またスキルサイエンスなど身体知能とのかかわりも捉えていきたいと考えております。特別講演として、

- (1) バット作り名人久保田五十一氏のお話
- (2) 運動時の表面筋電位スペクトル分析と筋疲労に関する永田晟氏の講演

を予定しています。どうぞ、幅広い皆様方の御講演、御参加をお待ちしております。

募集テーマ

- (1) スポーツ工学：医学、体育学、バイオメカニクス、材料学、運動学、計測学など
- (2) ヒューマン・ダイナミクス：人間工学、生体力学、生体材料、生体動特性、生体計測・制御、医療・福祉、

動作・運動、感性・知能など

最新情報はジョイント・シンポジウムのホームページ <http://jsapt.hm.t.kanazawa-u.ac.jp/symp2006/> をご覧下さい。

申込締切日 2006年7月14日(金)

日本機械学会の「講演申込フォーム」(<http://www.jsme.or.jp/kouchu.htm>)、またはA4判用紙(書式自由)に、(1) 講演題目、(2) 著者名(講演者に○、連名者も)、(3) 勤務先、(4) 連絡先(郵便番号、住所、電話番号、FAX番号、E-mailアドレス)、(5) 所属学会を明記の上、概要を200字程度にまとめて下記までお送り下さい。

問合せ・講演申込先

住所 〒920-1192 金沢市角間町

金沢大学工学部 人間・機械工学科

米山 猛(実行委員長)

電話&Fax (076) 234-4683

E-mail: symp2006@jsapt.hm.t.kanazawa-u.ac.jp

原稿提出日 2006年9月15日(金)

原稿枚数 日本語あるいは英語を使用し、A4判6枚以内(英文アブストラクト約150語を含む)。

原稿作成方法は上記「講演申込フォーム」ページの「研究発表に関する規程」を参照。

原稿提出先 〒160-0016 東京都新宿区信濃町35番地 信濃町煉瓦館5階

日本機械学会 機械力学・計測制御部門

(担当職員 小阪 雅裕)

電話 (03) 5360-3505, FAX (03) 5360-3509

第8回「運動と振動の制御」国際会議のご案内 The Eighth International Conference on Motion and Vibration Control (MOVIC 2006)

URL: <http://novic.kaist.ac.kr/movic2006/>

機械力学・計測制御部門で創設された「運動と振動の制御」(MOVIC)国際会議が下記のとおり韓国で開催されます。

開催日：2006年8月27日(日)～30日(水)

会場：KAIST, Daejeon, Korea

MOVIC国際会議は、日本で生まれた隔年で開催される国際会議で、1992年・1994年横浜、1996年千葉、1998年チューリッヒ(スイス)、2000年シドニー(オーストラリア)、2002年さいたま、2004年セントルイス(米国)で開催されました。3度にわたる海外での開催によって国際的にも影響力の大きい会議へと成長を遂げたMOVIC 2006は、韓国 KAIST (Korea Advanced Institute of Science and Technology) にて開催されます。主催者側からの連絡によりますと、全体で206件の講演申込みがあり、そのうちの99件は日本からのもので、今回も、日本

から多くの方が参加される見込みです。

会場となるKAISTのあるDaejeon市へは、Incheon国際空港からバス(約3時間)で行くことができます。最先端の研究・技術の動向を知り、国際的な情報交換を行う絶好の機会ですので、奮ってご参加下さい。

◎問い合わせ先：

【現地】

Prof. Youngjin Park, Dept. of ME, KAIST

Secretary General, MOVIC 2006

Tel: +82-42-869-8211, Fax: +82-42-869-8220

Secretary: Tel: +82-42-472-7463, Fax: +82-42-472-7459

E-mail: movic2006@novic.kaist.ac.kr

【国内】

埼玉大学大学院理工学研究科人間支援・生産科学部門
教授 水野 毅

Tel: (048)858-3455, Fax: (048)-858-3712

E-mail: mizar@mech.saitama-u.ac.jp

◎最新の情報については、下記のホームページをご覧ください。

URL: <http://novic.kaist.ac.kr/movic2006/>

第12回日本地震工学シンポジウム開催のお知らせ

主催：日本地震工学会(幹事学会)，(社)地盤工学会，(社)土木学会，(社)日本機械学会，(社)日本建築学会，(社)日本地震学会，(財)震災予防協会

日時：2006年11月3日(金)～5日(日)

会場：東京工業大学大岡山キャンパス
(東京都目黒区大岡山2-12-1)

概要：

本シンポジウム(JEES)は、おおむね4年ごとに、世界地震工学会議(WCEE)開催の中間年に開かれる、地震工学に関する複数の専門分野にまたがる横断的な研究発表と意見交換の場であり、最近数回の参加者は800名を超える実績があり、この種の会議の代表的なものとして評価されています。今回は、「人・技術・減災」をテーマとして開催することになりましたので、多数の方のご参加をお待ちしています。

一般テーマとして、震害、地震ハザードおよびゾーン、震源特性、地盤震動、強震動予測および入力

地震動、津波、土および地盤の動的特性、地盤の非線形応答、地盤の液化化、側方流動および地盤変状、地すべりと斜面崩壊、土構造物・ダム、基礎、地中構造物、相互作用、構造物と構造物・構造要素の実験、構造物と産業施設の地震応答、免震、制震(振)、知的構造およびヘルスマニタリング、耐震診断・耐震補強、非構造部材・設備、構造物の耐震設計論および耐震設計基準、ライフラインと交通システム、防災計画および防災システム、リスクアセスメント、地震火災、地震時の人間行動、防災教育、リアルタイム地震防災および災害情報、社会・経済的問題の31テーマ、特別テーマとして、やや長周期地震動と地震被害、2004年新潟県中越地震、2004年スマトラ沖地震・津波の3テーマを予定しています。

また、特別講演：畑村洋太郎工学院大学教授による「失敗学と地震」、大学院生から初級技術者のための地震工学早わかり講義およびパネル討論：スマトラ地震津波の教訓(仮題)なども企画しています。

第5回 評価・診断に関するシンポジウム案内

主催 日本機械学会 機械力学・計測制御部門

共催 日本設備管理学会，日本トライボロジー学会

後援 大阪市立大学新産業創生研究センター

開催日：2006年11月30日(木)～12月1日(金)

会場：大阪市立大学 学術情報センター(大阪市住吉区)

開催趣旨：

日本機械学会，日本設備管理学会および日本トライボロジー学会では、安全・安心で持続可能な社会のための「評価」「診断」に関心を持つ研究者・技術者が集まり、分野・業種・産官学の垣根を越えて、ニーズとシーズの情報を交換する場を提供することを目的に、標記シンポジウムを開催いたします。本シンポジウムでは、同日・同会場にて関連企業及び大学研究室による評価・診断に関する機器・研究内容の展示も併催いたします。

本シンポジウムでは、参加される方々がお互いに技術・学術交流を深めるための新しい試みとして、一般講演における質疑・討論をパネルセッション形式で行います。15分/件の口頭発表終了後、4件程度まとめて、別途展示

したパネルの前にて参加者との質疑・ご討論30分程度をお願い致します。機器の展示も歓迎致します。詳細は一般講演のプログラム及び「講演者への案内」でご連絡致します。

「評価，診断，保全，メンテナンス」をキーワードに、多くの研究者・技術者にご参加いただきますよう、ご案内いたします。

講演募集分野：非破壊検査，保守検査，異常検知，センサー技術，信号処理，計測，評価，診断，モニタリング，メンテナンス，管理運用，事例紹介

その他：

詳細は「診断・メンテナンス技術に関する研究会」のホームページをご参照ください。

<http://diagnosis.dynamics.mech.eng.osaka-cu.ac.jp/>

問い合わせ先：

〒558-8585 大阪市住吉区杉本3-3-138

大阪市立大学大学院工学研究科機械物理系専攻

川合忠雄

TEL：(06) 6605-2667 FAX：(06) 6605-2767

E-mail: kawai@mech.eng.osaka-cu.ac.jp

ISMB10 の案内

磁気軸受国際会議(International Symposium on Magnetic Bearings)は、磁気軸受とそれに関連した技術を国際的に情報交換する目的で、スイス連邦工科大学のG. Schweitzer 先生、東京大学の樋口俊郎先生、米国バージニア大学の P. Allaire先生によって設立され、1988年に第1回がスイスETH Zurichで開催された。その後2年ごとに、ヨーロッパ、日本、アメリカと、世界を3分する形で続いて来た。

本年は8月21-22日にスイスのMartignyで第10回の磁気軸受国際会議(略称ISMB10)が開催される。詳細はホームページ<http://www.ismb10.org/>を参照下さい。

今までの会議では、参加者は160名程度で100編強の論

文が発表されてきた。今回も主催者側からの連絡では、40編のオーラルと70編のポスター発表があり、機器展示も計画されている。会議のあるMartignyはスイスの田舎町で、アルプスに囲まれた美しくかつ歴史のある町とのことである。日本からの行き方としては、チューリッヒまでは成田から直行便があるので、チューリッヒから電車(3時間半)で行くか、ヨーロッパのどこかの都市で乗り換え、ジュネーブから電車(1時間40分)で行くことになるでしょう。日本からも多くの参加者がいることを願っています。国内での問い合わせは、下記へご連絡下さい。

【問い合わせ先】茨城大学機械工学科 岡田養二

〒316-8511 日立市中成沢町 4-12-1

TEL: 0294-38-5025, FAX: 0294-38-5047

福祉工学シンポジウム2006

主催 バイオエンジニアリング部門(幹事部門)，機素潤滑設計部門，ロボティクス・メカトロニクス部門，機械力学・計測制御部門

共催 日本生活支援工学会，ライフサポート学会

開催日 2006年9月11日(月)～13日(水)

会場 東京理科大学野田キャンパス講義棟

(千葉県野田市山崎2641番地4)

シンポジウムご参加へのお誘い

福祉工学シンポジウム2006は上記4部門合同の企画で開催することになりました。昨年に続き今回も生活

支援工学系学会連合大会との併催になりますので、充実したプログラムとなっております。講演室は相互に自由に入場できますので、機械学会員はもとより、学会員以外の多くの研究者とも情報交換ができます。多数の皆様のご参加をお待ちしております。

問合せ先 〒337-8570 埼玉県さいたま市深作307/芝浦工業大学システム工学部機械制御システム学科/岡村 宏/電話(048)687-5161/FAX(048)687-5161/E-mail: fukushi@mme.shibaura-it.ac.jp

シンポジウムのホームページ

<http://www.mme.shibaura-it.ac.jp/fukushi/>

研究分科会・研究会

詳しい内容についてのお問い合わせ、あるいは参加をご希望の方は、主査・幹事にご連絡いただくか、分科会・研究会のホームページをご覧下さい

記号	分科会・研究会名 (期間)	主査・幹事 氏名 (所属), 連絡先, 研究会 HP
P-SCD349	ヒトとの有機的融合をめざす運動と振動の制御研究分科会 (2004.03-2007.02)	主査：須田義大 (東京大) suda@iis.u-tokyo.ac.jp 幹事：渡辺 亨 (日本大) toruw@mech.cst.nihon-u.ac.jp 幹事：中野公彦 (山口大) knakano@yamaguchi-u.ac.jp
A-TS 10-02	振動研究会 (1988.10-2008.09)	主査：松久 寛 (京都大) matsuo@prec.kyoto-u.ac.jp 幹事：辻内伸好 (同志社大) ntsujiuc@mail.doshisha.ac.jp
A-TS 10-03	非線形振動研究会 (1988.11-2008.10)	主査：近藤孝広 (九州大) t-kondou@mech.kyushu-u.ac.jp 幹事：木村康治 (東京工業大) kkimura@mei.titech.ac.jp 幹事：黒田雅治 (産業技術総合研究所) m-kuroda@aist.go.jp 幹事：増本憲泰 (日本工業大) masumoto@leo.nit.ac.jp 幹事：神谷恵輔 (名古屋大学大学院) kamiya@nuem.nagoya-u.ac.jp
A-TS 10-04	ロータ・ダイナミクス・セミナー研究会 (1988.10-2008.08)	主査：神吉 博 (神戸大) kanki@mech.kobe-u.ac.jp 幹事：石田幸男 (名古屋大) ishida@ishidalab.nuem.nagoya-u.ac.jp 幹事：塩幡宏規 (茨城大) shiohata@mech.ibaraki.ac.jp
A-TS 10-05	F I V研究会 (1989.03-2008.02)	主査：金子成彦 (東京大) kaneko@mech.t.u-tokyo.ac.jp 幹事：中村友道 (三菱重工 (株)) nakamura@wj.trdc.mhi.co.jp 幹事：稲田文夫 ((財)電力中央研究所) inada@cripi.denken.or.jp
A-TS 10-07	モード解析研究会 (1989.05-2008.04)	主査：吉村卓也 (首都大学東京) yoshimu@ecomp.metro-u.ac.jp 幹事：鞍谷文保 (和歌山大) kuratani@center.wakayama-u.ac.jp 幹事：岩原光男 (法政大) iwahara@k.hosei.ac.jp 幹事：松村雄一 (滋賀県立大) matsu@mech.usp.ac.jp 幹事：細矢直基 (埼玉大) hosoya@mech.saitama-u.ac.jp
A-TS 10-08	回転体力学研究会 (1989.04-2009.03)	主査：佐藤勇一 (埼玉大) ysato@mech.saitama-u.ac.jp 幹事：榎田 均 ((株)東芝) hitoshi.sakakida@toshiba.co.jp
A-TS 10-09	運動と振動の制御研究会 (1989.07-2008.06)	主査：吉田和夫 (慶応義塾大) yoshida@sd.keio.ac.jp 幹事：野波健蔵 (千葉大) nonami@meneth.tm.chiba-u.ac.jp
A-TS 10-10	振動・音響研究会 (1989.08-2008.07)	主査：中川紀壽 (広島大) nakagawa@mec.hiroshima-u.ac.jp 幹事：日野順市 (徳島大) hino@me.tokushima-u.ac.jp 幹事：内田博志 (マツダ (株)) uchida.h@mazda.co.jp 幹事：関口泰久 (広島大) seki@mec.hiroshima-u.ac.jp
A-TS 10-11	北海道ダイナミクス研究会 (1990.10-2010.09)	主査：一ノ宮修 (北海道工業大) ichinomiya@hit.ac.jp 幹事：太田佳樹 (北海道工業大) ohta@hit.ac.jp
A-TS 10-12	振動基礎研究会 (1990.10-2010.09)	主査：池田 隆 (島根大) tiked@riko.shimane-u.ac.jp 幹事：河村庄造 (豊橋技術科学大) kawamura@mech.tut.ac.jp 幹事：井上卓見 (九州大) takumi@mech.kyushu-u.ac.jp 幹事：増本憲泰 (日本工業大) masumoto@leo.nit.ac.jp
A-TS 10-13	振動工学データベース研究会 (1991.01-2009.03)	主査：小林正生 (石川島播磨重工業 (株)) masao_kobayashi@ihi.co.jp 幹事：岩壺卓三 (関西大) iwatsubo@ipcku.kansai-u.ac.jp 幹事：松田博行 (千代田アドバンス・ソリューションズ (株)) hmatsuda@ykh.chiyoda.co.jp 幹事：古池治孝 (高輝度光科学研究センター) h_koike@spring8.or.jp 幹事：井上喜雄 (高知工大) inoue.yoshio@kochi-tech.ac.jp
A-TS 10-15	新しい分野における計測制御問題研究会 (1991.06-2008.05)	主査：山本圭治郎 (神奈川工大) yamakei@we.kanagawa-it.ac.jp 幹事：小山 紀 (明治大) oyama@isc.meiji.ac.jp
A-TS 10-16	北陸信越動的解析・設計研究会 (1991.10-2006.09)	主査：谷藤克也 (新潟大) tanifuji@eng.niigata-u.ac.jp 幹事：岩田佳雄 (金沢大) iwata@t.kanazawa-u.ac.jp 幹事：金山保治 (佐藤鉄工 (株)) kanayama@satotekko.co.jp
A-TS 10-18	九州ダイナミクス&コントロール研究会 (1992.04-2007.03)	主査：本田 巖 (三菱重工 (株)) iwao_honda@mhi.co.jp 幹事：佐々木卓実 (北九州市立大) sasa@env.kitakyu-u.ac.jp 幹事：西野 宏 (三菱重工 (株)) hiroshi1_nishino@mhi.co.jp
A-TS 10-19	減衰 (ダンピング) 研究会 (1992.06-2007.05)	主査：浅見敏彦 (兵庫県立大) asami@eng.u-hyogo.ac.jp 幹事：松本金矢 (三重大) matumoto@edu.mie-u.ac.jp
A-TS 10-20	ヒューマン・ダイナミクス&メジャメント研究会 (1992.09-2008.08)	主査：宇治橋貞幸 (東京工業大) ujihashi@hei.mei.titech.ac.jp 幹事：井上喜雄 (高知工大) inoue.yoshio@kochi-tech.ac.jp

記号	分科会・研究会名(期間)	主査・幹事 氏名(所属), 連絡先, 研究会 HP
A-TS 10-22	東海ダイナミクス・制御研究会 (1993.10-2008.09)	主査: 安田仁彦(愛知工業大) k-yasuda@aitech.ac.jp 幹事: 水谷一樹(三重大) mizutani@mach.mie-u.ac.jp 幹事: 石田幸男(名古屋大) ishida@nuem.nagoya-u.ac.jp
A-TS 10-24	パターン形成現象に関わるダイナミクス研究会 (1994.10-2009.09)	主査: 劉 孝宏(大分大) ryu@cc.oita-u.ac.jp 幹事: 小松崎俊彦(金沢大) toshi@t.kanazawa-u.ac.jp 幹事: 松崎健一郎(九州大) matsu@mech.kyushu-u.ac.jp
A-TS 10-25	磁気軸受標準化研究会 (1995.04-2009.03)	主査: 齋藤 修(石川島播磨重工業(株)) osamu_saitou_1@ihi.co.jp 幹事: 高橋直彦((株)日立プラントテクノロジー) naohiko.takahashi.qb@hitachi-pt.com
A-TS 10-26	磁気軸受のダイナミクスと制御研究会 (1995.04-2010.03)	主査: 岡田養二(主査交代予定)(茨城大) okada@mech.ibaraki.ac.jp 幹事: 野波健蔵(千葉大) nonami@meneth.tm.chiba-u.ac.jp
A-TS 10-27	シェルの振動と座屈研究会 (1995.04-2007.03)	主査: 成田吉弘(北海道工業大) narita@hit.ac.jp 幹事: 斎藤 俊(山口大) tsaito@yamaguchi-u.ac.jp 幹事: 太田佳樹(北海道工業大) ohta@hit.ac.jp
A-TS 10-29	最適化解析に基づく構造の知能化に関する研究会 (1996.01-2010.12)	主査: 萩原一郎(東京工業大) hagiwara@mech.titech.ac.jp 幹事: 梶原逸朗(東京工業大) kajiwara@mech.titech.ac.jp 幹事: 小机わかえ(神奈川工科大) kozukue@me.kanagawa-it.ac.jp
A-TS 10-31	音響エネルギー研究会 (1996.08-2006.07)	主査: 中川紀壽(広島大) nakagawa@mec.hiroshima-u.ac.jp 幹事: 永村和照(広島大) nagamura@mec.hiroshima-u.ac.jp 幹事: 杉本信正(大阪大) sugimoto@me.es.osaka-u.ac.jp
A-TS 10-32	東北地区ダイナミクス&コントロール研究会 (1997.08-2008.07)	主査: 高木敏行(東北大) takagi@ifs.tohoku.ac.jp 幹事: 田中真美(東北大) mami@rose.mech.tohoku.ac.jp
A-TS 10-33	機械工学における力学系理論の応用に関する研究会 (1997.10-2007.09)	主査: 藪野浩司(筑波大) yabuno@esys.tsukuba.ac.jp 幹事: 吉村浩明(早稲田大) a88142@mn.waseda.ac.jp
A-TS 10-34	機械工学における先端計測研究会 (1998.05-2009.03)	主査: 梅田 章(独立行政法人産業技術総合研究所) akira.umedam@aist.go.jp 幹事: 梶原逸朗(東京工業大) kajiwara@mech.titech.ac.jp 幹事: 小川 胖 yo.159.v@jcom.home.ne.jp
A-TS 10-37	動力学におけるモデル化研究会 (2001.09-2006.08)	主査: 長松昭男(法政大) nagamatu@k.hosei.ac.jp 幹事: 御法川学(法政大) minori@k.hosei.ac.jp
A-TS 10-38	マルチボディダイナミクス研究会 (2001.10-2010.09)	主査: 清水信行(いわき明星大) nshim@iwakimu.ac.jp 幹事: 今西悦二郎((株)神戸製鋼所) e-imanishi@rd.krcl.kobelco.co.jp
A-TS 10-39	診断・メンテナンス技術に関する研究会 (2004.04-2009.03)	主査: 川合忠雄(大阪市立大) kawai@mech.eng.osaka-cu.ac.jp 幹事: 渡部幸夫((株)東芝) yukiol.watanabe@toshiba.co.jp
A-TS 10-40	スマート構造システムの将来技術と実用化に関する研究会 (2004.05-2009.04)	主査: 梶原逸朗(東京工業大) kajiwara@mech.titech.ac.jp 幹事: 奥川雅之(岐阜工業高等専門学校) okugawa@gifu-nct.ac.jp 幹事: 安達和彦(神戸大) kazuhiko@mech.kobe-u.ac.jp 幹事: 西垣 勉(東京工業大) tnishiga@mes.titech.ac.jp
A-TS 10-41	耐震問題研究会 (2005.04-2010.03)	主査: 曾根 彰(京都工芸繊維大) sone@ipc.kit.ac.jp 幹事: 古屋 治(東京都立工業高等専門学校) furuya@tokyo-tmct.ac.jp

年間カレンダー

機械力学・計測制御部門講演会等行事予定一覧

開催日	名称	開催地
2006年8月5日	D&D Conference 2006 付随行事 第4回夏の学校:ロータダイナミクスの基礎・信号処理・制振	名古屋大学(名古屋市)
2006年8月6日~9日	D&D Conference 2006	名古屋大学(名古屋市)
2006年8月21日~23日	The 10th International Symposium on Magnetic Bearings (ISMB 10)	Martigny, Switzerland
2006年8月27日~30日	The 8th International Conference on Motion and Vibration Control (MOVIC2006)	KAIST, Daejeon, Korea
2006年9月18日~22日	2006年度 日本機械学会 年次大会	熊本大学(熊本市)
2006年9月28日~29日	講習会:振動解析入門 -振動の基礎から実験モード,CAE解析まで-	機械学会会議室(東京)
2006年10月20日	講習会:すぐに役立つ技術英語によるプレゼンテーション	キャンパスイノベーションセンター(東京)
2006年11月9日~11日	ジョイント・シンポジウム2006 スポーツ工学シンポジウム/シンポジウム:ヒューマン・ダイナミクス	石川県地場産業振興センター(金沢市)
2006年11月30日~12月1日	第5回評価・診断に関するシンポジウム	大阪市立大学 学術情報センター(大阪市)
2006年12月開催予定	講習会:すぐに役立つ技術英語によるプレゼンテーション	会場未定(富山市)
2007年1月開催予定	講習会:運動方程式の立て方七変化 -3次元拘束力学系の運動方程式の立て方-	会場未定(東京)
2007年6月1日~3日	The Second International Symposium on Advanced Technology of Vibration and Sound (VSTech2007)	Lanzhou Legend Hotel, Lanzhou, China

総務委員会から学生員勧誘のお願い

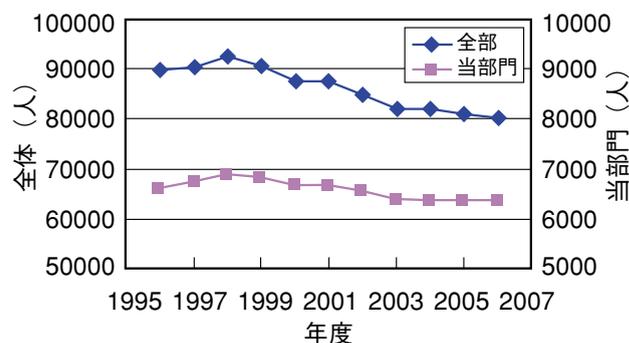
委員長 石原国彦 (徳島大学)
幹事 田中真美 (東北大学)
委員 湯村 敬 (三菱電機)

総務委員会における最大の任務は機械力学・計測制御部門を恒常的に活性化することであり、そのための最も有力な施策は当部門の登録者を増やすことでもあります。現在(2006年2月)第1位から第3位までの登録者の合計は全体の80007人に対し当部門は6325人です。これは21部門の中で流体工学部門(6685人)について2位であります。図1は過去11年間の部門登録者(3位までの合計)の推移であり、全体と当部門の推移はほぼ同じ傾向にあります。このことは自然な結果であり、全体に対する部門登録者の比率を上げるためには、何らかの特別な施策を講じる必要があることを示唆しています。

総務委員会としては、今年度は部門登録する学生員を増加させることを目標に挙げております。

そこでお願ひがあります!!

全国の大学・高専で機械力学や制御工学、計測工学を教えておられる先生方には、3月に各地区で開催される総会・講演会に学生に発表させるよう指導して頂き、発表資格取得のため先ず機械学会に入会させ、次いで当部門に第1位登録するよう勧めていただきたいと考えています。よろしくお願ひします。



出版委員会からのお知らせ (今年度の活動)

出版委員会委員長 曄道佳明 (上智大学)

出版委員会では、利用者の利便性の向上を念頭に、講演論文集、教材、データベースなどへのホームページからのアクセスについて、電子情報の利用促進を目指してきました。今年度も、基本的活動としてこの作業の継続に重点を置き、引き続き、情報利用の対象の拡大、利便性の向上を図ります。特に、今年度は各研究分科会での

成果、データベースに着目し、これらの中から情報公開に適したものをピックアップし、皆様に利用いただける環境作りを目指します。

部門の皆様からのご要望やアイデアを積極的に取り入れていく所存ですので、どうぞお気軽に下記までご意見をお寄せください。

出版委員会委員長 曄道佳明

(上智大学, y-terumi@sophia.ac.jp)

幹事 長坂今夫 (中部大学, nagasaka@isc.chubu.ac.jp)

講習会企画委員会よりご案内

委員長 高原弘樹 (東工大)
幹事 本家浩一 (神戸製鋼所)

講習会企画委員会では、今年度も、会員の皆様の技術ポテンシャルアップに役立つ、講習会をいくつか企画しております。詳細が決まりましたら、順次、会誌あるいはホームページ等にて、ご案内申し上げます。直近の講習会は以下のとおりです。皆様のご参加をお待ち申し上げます。定員になり次第締め切りますので、お早めにお申し込み下さい。各講習会の詳細は、日本機械学会誌会告、または、部門ホームページをご参照下さい。

①D&D 2006 第4回夏の学校

「ロータダイナミクスの基礎・信号処理・制御」

講師: 池田 隆(島根大), 井上剛志(名古屋大), 田浦裕生(長岡技科大), 石田幸男(名古屋大)

開催日: 2006年8月5日(土)

会場: 名古屋 名古屋大学工学部

主催: 日本機械学会機械力学・計測制御部門

②「振動解析入門」

—振動の基礎から実験モード解析, CAE解析まで—

講師: 長松昭男(法政大), 岩原光男(法政大), 天津成美(キャテック), ○○(エステック), 砂子田勝昭(秋田大), 梶原逸朗(東工大), 森村浩明(科学技術振興機構)

開催日: 2006年9月28日(木), 29日(金)

会場: 東京 日本機械学会 会議室

主催: 日本機械学会機械力学・計測制御部門

④すぐに役立つ技術英語によるプレゼンテーション

講師: 村田泰美(名城大), 小野義正(東大), Edward T. Haig(名大)

開催日: 2006年10月20日(金)

会場: 東京・田町 キャンパスイノベーションセンター1階 国際会議室

主催: 日本機械学会機械力学・計測制御部門

⑤マルチボディダイナミクスの基礎 (仮)

開催日: 2006年11月~2007年1月開催予定

会場: 東京

主催: 日本機械学会機械力学・計測制御部門

⑥すぐに役立つ技術英語によるプレゼンテーション

開催日: 2006年12月開催予定

会場: 富山

主催: 日本機械学会機械力学・計測制御部門, 日本機械学会北陸信越支部合同企画

当委員会では、皆様のご意見を講習会企画へ反映させて頂きたいと思っております。ご希望のテーマ、講習を聞きたい講師の方などをお知らせ頂ければ幸いです (dmc-koushuu@jsme.or.jpへお願ひします)。

表彰委員会からのお知らせ

－平成18年度部門賞候補者の公募－

機械力学・計測制御部門では部門活性化の一環として部門賞を設けています。本年度は、下記の要領で受賞候補者を募集しますので、積極的に多数ご応募ください（自薦・他薦いづれでも結構です）。

記

1. 表彰名称・対象

1. 1 部門顕彰

- (1) 部門功績賞：部門の発展、活性化に顕著な功績のあった個人
- (2) 部門国際賞：当該分野の国際的学術の発展に寄与、もしくは国際交流に業績のあった個人
- (3) 学術業績賞：当該分野の学術、出版などの業績が顕著な個人
- (4) 技術業績賞：当該分野に関連する技術・システムなどの開発業績が顕著な個人
- (5) パイオニア賞：当該分野の萌芽的研究、学術の発展性が顕著な36才以上の個人

1. 2 部門一般表彰

- (1) 部門貢献表彰：特定の部門の諸活動に関して顕著な成果を挙げ、貢献した個人または団体

2. 応募要領

A4サイズの用紙に下記要目を記入し、郵送願います。

- (1) 表彰名称
- (2) 候補者の所属・部署・氏名
- (3) 推薦理由（200～500字）
- (4) 推薦者の所属・部署・氏名・連絡先
- (5) 参考資料があれば添付する

3. 提出先

〒160-0016 東京都新宿区信濃町35番地信濃町煉瓦館5階
(社)日本機械学会 機械力学・計測制御部門 表彰委員会

4. 応募期間：2006年10月16日～12月15日

5. 問い合わせ先

・表彰委員会委員長 神吉 博（神戸大学）

TEL：078-803-6140 FAX：078-803-6155

E-mail：kanki@mech.kobe-u.ac.jp

・表彰委員会幹事 古屋 治（都立産業技術高専）

TEL：03-3471-6331 FAX：03-3471-6338

E-mail：furuya@tokyo-tmct.ac.jp

6. 表彰時期・場所

D&D Conference 2007懇親会の席上を予定しています。

7. 表彰件数

部門顕彰は5賞の候補者の中から6名以内を表彰します。部門一般表彰は表彰人数を特に定めていません。

出版委員会からのお知らせ（今年度の活動）

広報委員会委員長 渡辺 亨（日本大）

広報委員会では、ニューズレターの発行、機械工学年鑑の編集、部門ホームページの管理運営、部門メーリングリストの管理運営などを行っております。皆様のご積極的なご利用をお待ちしております。またご意見・ご提案などございましたらどしどし広報委員会へお寄せください。

★「部門シンボルマーク」について

現在機械力学・計測制御部門は「シンボルマーク」を有していませんが、既に他部門の多くは独自のシンボルを設定しております。現在、広報委員会では部門シンボルマーク策定に向け、D&D終了後に部門登録者の皆様に何らかの提案をさせて頂くことを目指して検討を進めております。提案は部門ホームページやメーリングリスト等に掲示します。

第84期 機械力学・計測制御部門運営委員会

常設委員会組織

総務委員会

委員長 石原 国彦（徳島大学）

幹事 田中 真美（東北大）

広報委員会

委員長 渡辺 亨（日本大）

幹事 東 明彦（海上保安大）

表彰委員会

委員長 神吉 博（神戸大）

幹事 古屋 治（産業技術高等専門）

出版委員会

委員長 曄道 佳明（上智大）

幹事 長坂 今夫（中部大）

講習会企画委員会

委員長 高原 弘樹（東京工業大）

幹事 本家 浩一（神戸製鋼所）

部門長
副部門長
幹事

中川 紀壽（広島大）
永井 健一（群馬大）
吉村 卓也（首都大学東京）

運営委員会委員

東 明彦（海上保安大）	石原 国彦（徳島大学）
井上 剛志（名古屋大）	宇津野秀夫（京都大）
大石 久己（工学院大）	勝浦 啓（三菱重工業）
川副 嘉彦（埼玉工業大）	河村 庄造（豊橋技術科学大）
神吉 博（神戸大）	雉本 信哉（九州大）
鞍谷 文保（和歌山大）	小池 裕二（石川島播磨重工）
杉浦 壽彦（慶應義塾大）	高原 弘樹（東京工業大）
田中 真美（東北大）	曄道 佳明（上智大）
富岡 隆弘（鉄道総合技術研究所）	長坂 今夫（中部大）
浪田 芳郎（日立製作所）	成田 吉弘（北海道大）
古屋 治（産業技術高等専門）	本家 浩一（神戸製鋼所）
本江 哲行（富山工業高等専門）	水野 末良（東芝）
毛利 宏（日産自動車）	元松 廣議（新日本製鐵）
山内 章裕（トヨタ自動車）	湯村 敬（三菱電機）
和田 憲造（山口大）	渡辺 亨（日本大）

DYNAMICS

編集室

日本機械学会機械力学・計測制御部門
〒160-0016 東京都新宿区信濃町35番地
信濃町煉瓦館5階 電話03-5360-3500
FAX03-5360-3508

編集責任者 渡辺 亨（日本大）

編集委員 東 明彦（海上保安大）

部門ホームページ：<http://www.jsme.or.jp/dmc/>

発行日 2006年7月14日